



高知一札幌線が就航

▼4月1日、南国と北海道を2時間で結ぶエアニッポンの高知一札幌線が就航しました。

出発第一便に合わせた高知空港でのセレモニーでは、橋本知事が機長や乗客代表らに花束を贈呈した後、関係者らがテープカットを行い、札幌直行便の就航を祝いました。

この後、午前11時15分、ほぼ満席で第1便が北の空へ向かい飛び立ちました。

4月2日札幌からの第一便では、空港所在地の千歳市長らが来高され、3日には南国市長を表敬訪問。互いに一層の交流を誓い合いました。



わよならプロペラ機

▲昭和四十年高知一大阪間に就航し、三十年間国民の空の足として、活躍してきたエアニッポンのプロペラ機YS-11が、三月三十一日を最後に高知空港から姿を消すことになり、ラストフライトのセレモニーが行われました。

この日午後三時すぎ、大阪から到着した最終便を「ありがとうYS-11」の横断幕で迎え、浜田市長が阪上機長やスチニューワース、乗客代表の加藤明雄さんに花束を贈呈しました。

この後、航空関係者や約一〇〇人の名残を惜しむ熱心なファンに見送られ、大阪行き最終便が満席で出発しました。



▲土佐日記の作者で、土佐の国司・紀貫之が帰京の際に立ち寄ったとされる前浜で4月6日、貫之をしのぶ「土佐日記」大湊貫之祭が開かれ、地元の人たちが平安の歌人に思いを寄せました。

春らんまん、桜満開のこの日、西山大湊史談会代表らのあいさつに続いて、土佐日記読、地元の女性らが「大湊音頭」や「舞踏黒潮大鼓」などを披露。

また、会場ではチリメンジャコ汁が振るまわれました。

▶知的障害児・者やその家族とボランティア活動に取り組む人ら約55人が3月31日、西島園芸団地のイチゴ狩りを楽しみました。

これは南国市手をつなぐ親の会（今西怡邦会長）が知的障害児・者やその家族との交流を深めようと開いたもので、参加者らは、真っ赤に熟れたイチゴにお喜び、おいしそうにほおばっていました。



◀南国市陸上競技協会主催の市町村対抗バードランド駅伝が3月24日、十市の石土池周辺で行われ、県内各地から壮年・女子の部、合わせて14チーム、70人ほどが参加、5区間16キロのコースで健脚を競いました。



カメラリポート



日本の春 桜の下の国際交流 「第二回貫之さくら祭り」



熱演に拍手声援がいっぱいのステージでした。「イヨー！日本ー」

新しく「さくら楼敷」が登場した大塚熊野神社特設広場で第二回貫之さくら祭りが開催されました。満開のソメイヨシノがヒラヒラと散る満点の風情の中、特設ステージでは香長中学校音楽部の演奏でオープニング。その後、市文化推進協議会の人らによる舞踊、琴、尺八演奏などが披露されました。市内在住の外国人も多数参加。国際ソロプチミスト南国の会員から「お茶」のもてなしを受けたり、和服を試着したりで、賑やかな国際交流風景も。また、勝ちぬきジャンケンゲームでは、浜田市長も登場。勝ち抜いた、バン格拉ダシユのシャーミン、モスタファさんが、花嫁衣装の「打ちかけ」のプレゼントを受け、「家をにしたい」と大喜びでした。主催の同祭り実行委員会は、「今年も予定していた二倍の人数の約八百人が来てくれました。来年はさらにサービスマップして市民に喜んでもらえる祭りになりたい」と張りきっていました。

夏の「まほろば祭り」、秋の「才谷龍馬祭」、冬の「土佐日記門出のまつり」、春の「貫之さくら祭り」と個性と意味のある祭りが定着してきました。

春の交通安全運動スタート

4月6日から15日まで全国一斉に春の交通安全運動が始まりました。南国市でも、新入学児童などに対する街頭指導や高齢者の事故防止対策などを柱に様々な取り組みが行われました。



4月7日、南国自動車学校で、高齢者の事故防止をクラブ員一人ひとりに推進してもらおうと「南国長命会（三島）」が高齢者交通安全モデルクラブに認定されました。その後、自転車に乗る場合の注意点などを学習しました。

4月8日、南国バイパス大塚交差点で、一斉街頭指導が行われました。南国市交通安全市民会議など約100人が、新しくなった「命を落とすなスピード落とせ！」「初心に帰ろう運転マナー」という看板を掲げて、朝の出動を急ぐドライバーに事故防止をアピールしました。



4月12日、大湊保育所の園児30人が、J A南国市前浜支所前において、ドライバーのやさしい運転と思いやりを願って、交通マナーとルールを守るようにと、元気な声でドライバーサービスを行いました。